

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎!TEL 03
(5950)
17711年生授業で
「熱中症予防教育」

東京建築カレッジは労働安全衛生法に基づく法定講習も正規授業の中にしっかり組み込んでいます。

あらゆる仕事は安全第一。東京建築カレッジ(以下、カレッジ)は、労働安全衛生法(安衛法)に基づく法定講習もしっかり実施しています。5月17日(金)には「建築労働論」の授業時間を使って「熱中症予防教育」をおこないました。

この授業を担当したのは渡辺義久理事長。本校の母体、東京土建一般労働組合の副委員長です。タイル工として長年働く中で仕事での様々なケガや健康被害を目の当たりにしてきました。労働安全教育の重要性を痛感し、カレッジでは、足場やフルハーネス、石綿(アスベスト)、自由研削砥石

など「特別教育」(安衛法59条)を担当しています。

せっかくの特別教育も受講者が居眠りや注意力散漫では効果を期待できません。この日も渡辺理事長は全員が集中して授業に参加するように、研修生に常に声かけながら授業を進めていました。

「水を飲むだけではダメ。人体にどのような影響があるのか、科学的に理解し、塩分を適切に取ろう」と、渡辺理事長 ー江東実習場 2階教室。

【主な内容】熱中症とは／職場における熱中症／熱中症の仕組みと症状／予防方法(暑さ指数WBGT活用など)／予防活動。



「基礎製図Ⅱ(建築表現)」担当講師

一級建築士 入江 敏郎 さん



今年度から「建築スケッチ」の指導担当として着任した入江敏郎さんは大学卒業後、アトリエ系設計事務所に所属、その後は店舗やオフィス、イベント空間のデザインを多く手掛けてきました。「子どもの頃から芸術と工学の要素が両方ある建築に興味を持ち、この仕事を選んだ」。

東京土建が主催する建築士受験の準備講座の講師を務めていた縁で、建築カレッジでスケッチ技法を教えることになりました。



「職人を育てる学校なので、何か物をつくる上でのコミュニケーション手段としてのスケッチの魅力を伝えたい。実務の中にどう取り入れるか、口で説明しても理解できないので、手を使つての建築表現をまず経験させたい」と、張り切っています。5月下旬から1年生の授業が始まりました。

渋谷区出身、1954年4月生まれの70歳。

暮らしを豊かにするデザインの面白さも伝えたい

オープンキャンパス情報

東京建築カレッジは第30期生(来年4月入学生)募集のため授業の一部を体験できるオープンキャンパスを開催します。
第一回は6月16日(日)朝9時45分受付、10時ス



タート(定員10人)。体験できるのは、「ほぞ、ほぞ穴の加工」

写真。最初に平行定規で図面を作成。それを使つて材料に墨付け、刻みをおこないます。本校の設計製図、大工実技実習の講師が製作指導します。公式ホームページの参加登録フォームでお申し込みください。



1年生の授業から

グループ学習で数学に親しむ 「建築従事者のための数学講座」

1年生(第29期生)は入学して2か月が過ぎ、建築カレッジ生活にすっかり慣れた様子です。仲の良い友だちもできて教室から歓声が聞こえる場面も。

大工実技実習が注目されるカレッジ教育ですが、座学授業もたくさんあります。その一つが1年次の前期に集中学習する数学の復習授業(科目名は「建築測量基礎」)。

元都立高校教員(科目は「物理」)のカレッジ卒業生、

黒田順講師によるオリジナル教材「建築従事者のための数学講座」を使って、正数の加減乗除から始

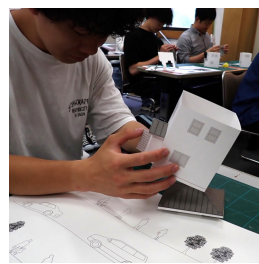
める授業には毎年「中学生の頃にこの先生に出会いたかった」の声が上がります。建築と深い関わりのあるピタゴラスの定理(三平方の定理)もこの授業で、定理の証明を聞

けば頭の中がすっきり。勾配に向き合う実務では三角比の理解も避けて通れませんが、誰もが聞き覚えのある、サイン、コサイン、タンジェントが建築ではどれほど役に立つのか、仲間と一緒に学んでいきます。

2年生の授業から

各専門工事職の実習 左官や塗装、クロス、板金など

本校の実技実習の多くは大工技術ですが、2年次の前期には7つの各専門工事職の施工体験の授業を設けています。建



「基礎製図」では、平面と立体の関係を理解できる教育に力を入れています。1年次後期に取り組む実習棟の紙の模型制作も工夫の一つです。Ⅱ右写真。

築現場を統括できる人をめざすには大工以外の仕事の理解も欠かせないからです。型枠・鉄筋、左官「モルタル、漆喰(しっくい)」、水道設備、塗装、襖(ふすま)・クロス、タイル、板金の作業を、本校母体の指導で体験します。



5月31日の左官授業。2人1組でモルタルを塗りました。

入学対象者をお知らせください

安心して働ける就職先を紹介します

本校は、来年4月入学生(第30期生)を求めて、首都圏の高校への訪問を始めました。ある公立の工業高校の進路指導教員は「毎年3000枚の求人票が届く。有名大企業が高校新卒を採りに動いている」と話しています。大学や専門学校も生き残りをかけて高校生へのアプローチを強めています。本校には地域に根ざした中小工務店・中小建設会社の担い手を確保・育成する使命があります。人材獲得のたまたかいで負けるわけにはいきません。目標にしている25人入学を達成したいと思います。皆様の周囲の入学対象者をぜひご紹介ください。

「ハローワーク池袋」登録の東京建築カレッジ無料職業紹介所が安心して働ける会社を紹介します。新卒以外、第二新卒や転職組の応募も大歓迎です。カレッジHPはこちら



授業後の廃棄木材が人気

「バーベキューの燃料やDIYにどうぞ!」。江東実習場では授業の廃材を周辺住民に提供しています。一番人気は、2年生の廻り階段授業で使った集成材の段板。端を切り落として様々な寸法の長方形にしたところ、あっという間に無くなりました。DIY心をくすぐるのでしょうか。意外だったのは、カンナくずや木っ端を持ち帰る人がいること。小さなビニール袋に入れたので「カワイイ」と思われたのでしょうか。「カンナくずは乾燥剤になるかも」という声も聞きました。

